縄文時代

名前

問1　縄文時代に作られた、人間をかたどった特徴的な土製品である「土偶」について、この道具が作られた主な目的として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった稲作の技術を広めるための儀式の道具として作られた
2. 古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めたり境界を示したりするために作られた
3. 食料を保存したり、煮炊きを行ったりするための日常的な容器として作られた
4. 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた

問2　縄文時代の人々が、食物の豊作や子孫の繁栄、あるいは病気や怪我の治癒などを願うための信仰として用いた、女性をかたどった土製の像を何と呼びますか。（2023年 香川県公立入試 類似）

1. 石包丁
2. 土偶
3. 銅鐸
4. 埴輪

問3　紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 愛知県公立入試 類似）

1. 土器はまだ作られておらず、ナウマンゾウなどの大型の獲物を追いながら移動して生活していた
2. 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた
3. 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた
4. 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた

問4　佐賀県の東名遺跡（ひがしみょういせき）では、約8千年前の地層から植物の繊維で編まれた国内最古級の「編みかご」が発見されました。このような発見から推測される、当時の人々の生活習慣や信仰に関する記述として正しいものを次の中から選んでください。（2019年 佐賀県公立入試 類似）

1. 有力な王が各地を支配しており、その権力を象徴するために巨大な前方後円墳が造られた。
2. 大規模な灌漑設備を整えて稲作を行い、村同士の争いに備えて周囲に堀を巡らせた環濠集落で暮らした。
3. 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶（どぐう）が作られた。
4. 仏教の教えが広まり、国家の安泰を願って各地に国分寺や国分尼寺が建立された。

問5　縄文時代の遺跡から発見される、人間を模した土製品（土偶）に関する記述として、当時の人々の暮らしや考え方を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 亡くなった豪族の権威を示すため、巨大な墓の周辺に副葬品として配置された
2. 定住生活が始まったことで、集落の入り口に魔除けとして立てられた石像である
3. 米作りの儀式において、神の依代として用いられた青銅製の道具である
4. 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された

問6　約1万年前に氷期が終わり、日本列島の周辺環境が変化した際の様子について説明した文として、適切なものを選択してください。（2019年 千葉県公立入試 類似）

1. 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた
2. 大規模な地殻変動が起こり、日本列島は大陸から切り離されて島国となった
3. 気候が温暖になり、海面が下降したことで沿岸部に広大な平野が形成された
4. 気候が寒冷になり、海面が下降したことで日本列島はユーラシア大陸と陸続きになった

問7　山形県舟形町で出土し、高さが約45cmあり国宝にも指定されている「縄文の女神」について述べた文として、歴史的な事実に基づいた正しい説明を選びなさい。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 飛鳥時代に大陸から伝わった仏教の影響を受けて作られた、初期の仏像である。
2. 弥生時代の遺跡から発見された青銅器であり、大陸との交流を示す資料である。
3. 縄文時代中期に作られた土偶であり、当時の人々の信仰や祈りの対象であった。
4. 古墳の周囲に並べられた埴輪の一種であり、武人や馬の形をしたものが多い。

問8　縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいますか。（2026年 熊本県公立入試 類似）

1. 土偶
2. 埴輪
3. 銅鐸
4. 石包丁

問9　青森県にある三内丸山遺跡の特徴を説明した新聞記事において、この遺跡が「縄文時代の生活観を大きく変えた」とされる理由として、当時の人々の暮らしの様子を正しく説明しているものはどれか。（2025年 北海道公立入試 類似）

1. 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。
2. 青銅器や鉄器などの金属器が普及し、身分の差が生まれるとともに大規模なクニ同士の争いが起きた。
3. 打製石器を用いてナウマン象やヘラジカなどの大型動物を追いながら、移動生活を繰り返していた。
4. 本格的な稲作が始まり、食料を蓄えるための高床倉庫や、周囲を堀で囲んだ環濠集落が形成された。

問10　縄文時代の遺跡である貝塚が、当時の社会や生活を研究する上で「考古学的資料」として極めて重要視されている理由として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 香川県公立入試 類似）

1. 炭化した米や高床倉庫の跡が発見されることで、当時の人々が計画的に食料を生産・貯蔵していた社会構造を裏付けるから。
2. 巨大な石材を用いた石室や、死者とともに埋められた豪華な副葬品が発見されることで、当時の強力な権力者の存在を証明できるから。
3. 集落の周囲を深い溝で囲むことで、稲作をめぐる集落間の争いがあったことや、防衛のための組織的な仕組みがあったことを示すから。
4. 食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。

問11　縄文時代の遺跡からは、女性をかたどったとされる土偶など、当時の精神文化を反映した遺物が多く発見されています。これらの遺物が作られた目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）

1. 身分の高い人物が亡くなった際、その墓である古墳に副葬品として納めるために作られた
2. 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた
3. 稲作が普及し、収穫した米を保存するためのまじないとして作られた
4. 大陸との交易において、有力者が自分の富や権力を誇示するために作られた

問12　縄文時代の遺跡において、海岸や水辺に近い集落付近で見つかる、食べた後の貝殻や魚の骨、破損した土器などが堆積した場所を何といいますか。当時の人々の「ゴミ捨て場」としての性格を持ち、生活の痕跡（生活跡）を現代に伝えるものを選びなさい。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 古墳
2. 貝塚
3. 高床倉庫
4. 環濠集落

答え合わせ・解説

問1	答え 4 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた	土偶は縄文時代を代表する土製品であり、その多くは女性を模して作られています。当時の人々は、自然界のあらゆるものに精霊が宿ると信じており、食料となる植物や動物の豊作、あるいは子孫繁栄や安産を願うための信仰の対象として土偶を用いていました。古墳時代に古墳の周囲に並べられた埴輪（はにわ）と混同しないよう注意が必要です。
問2	答え 2 土偶	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに霊魂が宿ると考えるアニミズムを信じていました。この時代に作られた土製の人形は、多くの場合、乳房や腹部が強調された女性の姿をしており、新しい生命の誕生や自然の再生、そして食物の豊作を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。古墳時代に作られ、古墳の周囲に並べられた埴輪とは、時代も目的も異なる点に注意が必要です。
問3	答え 3 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた	この時期の日本は縄文時代にあたります。人々は縄文土器を使って、植物の採取や狩猟で得た食料を煮炊きして食べるようになりました。また、地面を掘り下げて柱を立て、屋根を葺いた「竪穴住居」を作ることで、定住的な生活が営まれていました。他の選択肢は、弥生時代、古墳時代、旧石器時代の特徴です。
問4	答え 3 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶（どぐう）が作られた。	東名遺跡で発見された編みかごは、縄文時代の人々が身近な植物を利用して食料の採集や運搬を行っていた高い技術を持っていたことを示しています。この時代の生活は自然環境に強く依存していたため、自然の力を畏れ、豊かな収穫や安産などを祈る呪術的な道具として土偶が盛んに作られました。古墳の造営や環濠集落、国分寺の建立は、より後の時代（古墳時代、弥生時代、奈良時代）の出来事です。
問5	答え 4 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された	縄文時代の人々は狩猟や採集によって生活していたため、自然の豊かさは生存に直結する重要な要素でした。土偶が壊された状態で発見されることも多いことから、病気や怪我を土偶に移して平癒を祈ったり、食べ物の豊作や安産を祈ったりする宗教的な儀式に使われていたと考えられています。選択肢にある「古墳の周辺に配置」されるのは埴輪であり、土偶とは時代も目的も異なります。
問6	答え 1 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた	約1万年前に氷期が終わり、地球全体の気候が温暖化しました。その結果、大陸の氷河が溶けて海面が上昇し、それまでユーラシア大陸と地続きだった部分が海に沈んだことで、日本列島は現在のような島国の姿になりました。この環境の変化が縄文時代の始まりに大きく寄与しています。
問7	答え 3 縄文時代中期に作られた土偶であり、当時の人々の信仰や祈りの対象であった。	「縄文の女神」は、山形県の西ノ前遺跡から出土した縄文時代を代表する土偶です。土偶は縄文時代特有の遺物であり、その造形からは当時の人々の高い技術力や、精神世界を知ることができます。弥生時代に広まった青銅器や、古墳時代の埴輪とは、製作された時代も文化的な背景も明確に区別されます。
問8	答え 1 土偶	縄文時代につくられた素焼きの人形は土偶と呼ばれます。豊かな収穫や魔除けなどを祈る道具として用いられました。古墳時代につくられた埴輪や、弥生時代につくられた銅鐸との違いを押さえることが大切です。
問9	答え 1 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。	三内丸山遺跡は、縄文時代の人々が長期間にわたって安定した定住生活を営んでいたことを証明した遺跡である。稲作や環濠集落、金属器の使用は弥生時代の特徴であり、吉野ヶ里遺跡などに代表される。また、大型動物を追う移動生活は旧石器時代の特徴であるため、縄文時代の定住生活という特徴を正確に捉える必要がある。
問10	答え 4 食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。	貝塚は単なる「ゴミ捨て場」ではなく、何層にもわたって当時の生活の痕跡が積み重なったタイムカプセルのような役割を果たしています。出土する骨の種類から、季節ごとの狩猟・採集活動の様子を分析することができ、縄文時代の人々が自然のサイクルに合わせて豊かに暮らしていた背景を裏付ける資料となっています。
問11	答え 2 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	縄文時代は、狩りや漁、採集による生活であり、自然の状況に食料確保が左右されました。そのため、土偶などの遺物は、子孫繁栄や獲物の増加、病気の回復といった切実な願いを込めた呪術的な道具として用いられたと考えられています。
問12	答え 2 貝塚	縄文時代の人々が日常の生活で出た不要物を捨てた場所です。単なるゴミ捨て場としての機能だけでなく、食べ残された骨や貝殻から、当時の人々がどのような動植物を食べていたか、あるいは当時の気候や海岸線の位置がどこにあったかを知るための貴重な史料となります。